



## 小学部「遊びの指導」「生活単元学習」を紹介します！

天王みどり学園の小学部低学年は、遊びを学習活動の中心に据えて、身体活動の活発化や集団学習に必要な基礎的な力の伸長、学習に向かう姿勢や意欲の向上を目指しています。また、3・4・5・6年生は「生活単元学習」において、体験的な学習の中で生活上の課題を解決したり目標を達成したりする経験を重ね、自立や社会参加に必要な力を育てています。今号では、各学年の中心となっている題材・単元について紹介します。

### 1・2年 遊びの指導「にこにこたいむ」

月ごとにテーマを決め、「絵の具」「風」「水」などの素材で全身を使って楽しむ遊びや「光」や「飾り作り」を「七夕」の行事などと関連させて楽しむ遊びなどを展開しています。子どもたちは「遊ぶ」ことが目的ですが、その中で友達とのやりとりの仕方や協力して作り上げる喜び、自分の工夫で素材が変化する不思議さや面白さを日々学んでいます。



### 3年 生活単元学習「レッツ、トライ！～パンづくりに挑戦！～」

年間を通してパン作りに取り組んでいます。パンを作る材料や作り方を学んだり、どのようなパンを食べたいかを考えたりしながら、パン作りを頑張っています。また、校外学習ではパン作り体験をし、よりおいしくパンを作る方法を学んできました！

学習を繰り返してきたことで、生地をこねる手つきや味付けの仕方が上手になってきました！



### 4・5年 生活単元学習「屋台だ！わっしょい！」

東湖八坂神社のお祭りで、射的や金魚すくいなどの屋台を体験し、「もっと楽しみたい！」という思いを強くもった7人。まずは「射的屋さん」に挑戦！射的や進め方など、自分たちで試行錯誤し、楽しみました。「他の屋台もやってみたい」「他学年の友達を招待したい」という声もちらほら。動画での振り返りや、アンケートなどを行いながら、楽しい屋台を目指し、チャレンジしていきます。



### 6年 生活単元学習「がんばり隊出動～みんなのためにやってみよう」

みんなのためにできること、最高学年としてできることとして、3人の好き(得意)な活動を取り入れて活動しています。第一弾として、「小学部の滑り台のリニューアル」に取り組みました。自分たちで作ったおそろいのユニホームを着て色塗りと貼り付けをして水玉の滑り台を完成させました。小学部のみみんなも喜んでくれ、大満足の3人です。第二弾、第三弾も頑張ります。





# 地域研修会が行われました



## 「場面緘黙のある児童生徒の理解と関わりについて」

7月28日、上記をテーマに秋田大学教育文化学部こども発達・特別支援講座准教授鈴木徹氏を講師にお招きし、地域研修会を開催しました。

男鹿潟上南秋地区の各校・園および秋田市北部の各校の職員を対象としたオンラインでの参加者と校内職員が聴講しました。

今回の講義では、言葉話す力は育っているものの、園や学校など特定の場所・状況において話すことができないという様子がある場面緘黙のあるお子さんや生徒さんの背景には、どのようなことが考えられるのか、またどのように関わっていくことが大切なのかについて御講話いただきました。講座で使用された資料の一部と参加された方の感想を紹介します。※講座で使用された資料は、鈴木徹准教授から承諾の上掲載しております。

<p>学校や園でできる支援</p> <p>①</p>  <p>②</p>  <p>①緘黙症状が生じる場面の環境調整 ②子どもの意志表出手段の確保</p> <p>「不安の軽減」と「意志表出手段の確保」が支援の目的</p> <p>「安心感と活動・授業参加度を高める取り組み(園山, 2022)」が大切</p>	<p>学校や園でできる支援①緘黙症状が生じる場面の環境調整</p> <p>前提 不安を感じる場面の詳細なアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 座席の配置</li> <li>□ グループ編成</li> <li>□ 指名方法の統一 (指名の有無も含めて)</li> <li>□ 代替発表 (となりの友達が読み上げる)</li> <li>□ 行事への部分参加</li> <li>□ 別室登校</li> <li>□ 個別でかかわる機会の保障</li> <li>□ 友人が連れ添って移動</li> <li>□ 保護者が付き添って登校</li> </ul>	<p>学校や園でできる支援②子どもの意志表出手段の確保</p> <p>前提 不安を感じる場面の詳細なアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ コミュニケーションカードの使用</li> <li>□ 挙手 (例えば、教師と子どもの間で「手を挙げる=トイレに行きたい合図」だと決めておく)</li> <li>□ 板書で表現</li> <li>□ 筆談</li> <li>□ ハンドサイン</li> </ul>
---	---	--

学校や園で取り組める支援がありそうですね！

幼児児童生徒の「環境調整」が重要！

「話したい」という気持ちを大切にしたいですね！

## 参加された方の感想

・本人が楽しい、参加したいという活動を保障することの大切さ、生徒が楽しいと思える活動、話をしたいと思う活動や支援ができるように工夫していきたい。

・場所、人物、活動各々で不安をどれだけ感じているかを細やかに丁寧に評価すること、信頼できる人との人間関係の構築、人の存在の大切さを痛感した。

・「話す」がゴールではないことに気付いた。不安をとりのぞき、その児童・生徒が話したいと思えるような関係づくり、支援をしていきたい。

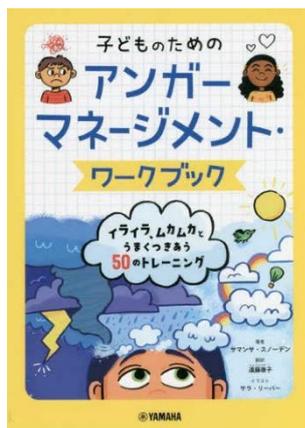
・児童との信頼関係を深め「話してよかった」と感じられるような活動、場面をつかっていきたい。

▷地域研修会アンケートへの御感想、御意見をありがとうございました。支援部では、アンケートでお寄せいただいた話題を今後の研修会の計画に生かして参ります。



授業や支援の  
ヒントに!

## おすすめ図書の紹介



書籍名

『子どものためのアンガーマネジメント・  
ワークブック』

イライラ、ムカムカとうまくつきあう 50のトレーニング』

発行 2022.1

著者 サマンサ・スノーデン (訳者 遠藤康子)

発行所 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント  
ホールディングス ミュージックメディア部

「はじめに」より (一部抜粋)

子どもたちの「安心したい、安全でありたい」という欲求は、大人よりもだんぜん強いのです。それに、自分の感情にとっても敏感で、しあわせでないとき、不愉快なとき、いやなことがあったときに、それをすぐに感じ取ります。子どもには大人のような、まわりの状況にはたらきかけたりコントロールしたりする力はありません。けれども、自分のこころや気持ち、反応について理解を深めれば、子どもでもその力を獲得することができますし、それは一生の宝となります。著者のサマンサ・スノーデンは、子どもたちがこころのうちにかかえた気持ちに気づき、コントロールするスキルを学ぶ方法を、このワークブックでたくさん紹介しています。

本作品は、「怒りを感じるのはなぜ?」「怒ると自分はどうなるの?」「怒りの取り扱い説明書」の三部構成となっています。そのまま学習に活用できるワークシートも多数掲載されているため、自立活動の学習などにぜひ取り入れてみてはいかがでしょうか。

## 全校授業研究会を開催します

今年度の全校授業研究会は次の期日を予定しています。たくさんの御参加をお待ちしています。詳細及び参加申込等につきましては、二次案内にて御確認ください。

小学部	11月18日(火) 10:40~11:25	提示授業: 4・5年	生活単元学習
中学部	12月4日(木) 10:30~11:20	提示授業:	1年 生活単元学習
高等部	12月10日(水) 10:30~11:20	提示授業:	3年 職業Bグループ

### 秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612

教頭:渡部 陽子 教育専門監:小野 直子 支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金

TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー:小松 美幸

